

千代田区 NPO・ボランティアとの協働 を進めるための基本指針

平成15年3月
千代田区政策経営部

21世紀を迎えた今日、福祉、環境などの社会的課題が複雑化している中、これまでの社会システムでは、社会的ニーズに十分対応することが困難になってきています。

千代田区では、平成13年10月、第3次基本構想を策定し、基本方針として、「100万人を活力とする自治体「千代田」をつくる」ことを掲げました。今後、活力に満ちた魅力あるまちづくりを進めていくためには、千代田に住み・働き・学び・集う全ての人々による自発的・自立的なNPO・ボランティア活動は重要な役割を担うものと期待されます。

そこで、区では、NPO・ボランティア等を、まちづくりの新たなパートナーと位置づけ、協働に向けた基本的考え方を示すこととしました。

指針1 NPO・ボランティアと区との協働だけではなく、地域、 企業、大学等を含めた協働を推進していきます。

千代田区には、地域の課題解決に幅広く活動してきた町会等の自治組織があり、また、企業・大学等も集中しています。これらとNPO・ボランティアとの協働は、千代田区の地域活性化にとって、大きな効果を与えるものです。区は、区とNPO・ボランティアとの協働だけではなく、千代田のまちづくりを担う様々な主体の協働を推進していきます。

指針2 異なる組織・活動文化と積極的に出会い、時にはぶつかり あいながら、理解し信頼しあう、協働のプロセスを大切に します。

協働は、異なる組織・活動文化をもつもの同士が、それぞれの特性を理解しそのよさを発揮しあうことで、効果を高めていくものです。お互いの文化の違いから生じるぶつかりあいを恐れず、共通する社会的課題に共感し、信頼しあう関係を築いていくことが、協働の出発点と考えます。

指針3 協働の目的や達成目標について十分話し合い、協働の成果を事前、事後に検証していきます。

区が推進する協働の最終目的は、だれもが住みたいと思える都心の魅力にあふれた千代田のまちづくりに向け、地域の課題解決や活性化を図ることです。協働にあたっては、その目的や達成目標を明確にし、協働することによる効果を事前に検証するとともに、実施後の成果について分析・評価していきます。

指針4 政策の立案段階から、互いの考えやアイデアを活かしています。

協働とは、お互いが対等の立場で役割や責任を分担しあうことです。決して、相手に補助的、下請け的な役割を求めるものではありません。区は、事業の実施場面だけでなく、企画立案の段階から、NPO・ボランティアの発想・提案を取り入れ、協働していく機会を充実していきます。

指針5 中間支援組織等、他の機関と連携しながら、自立に向けた活動支援を推進します。

対等の立場で協働を進めていくためには、NPO・ボランティアの活動が自立し、安定的に展開していることが必要です。区は、NPO・ボランティアの自発性・自立性を尊重しつつ、区内にある中間支援組織等と連携しながら、NPO・ボランティアの自立に向けた環境整備を基本とした、活動支援を進めていきます。